

(4) ストック

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
1 苗立枯病 <i>Rhizoctonia solani</i>	1. 発病圃からの採種は避ける。 2. 前作に発生した圃場には作付を避ける。 3. 排水を図り、被害株は早めに処分する。	播 種 前	M3・1	(混) ホーマイ水和剤
2 菌核病 <i>Sclerotinia sclerotiorum</i>	1. 病株は早めに抜き取って処分する。 2. ハウス栽培では過湿にならないようにする。 3. アブラナ科作物との輪作は避ける。 〈薬剤使用の特記事項〉 ●発病初期 1. 感染時期を逃さないよう早めの散布を心がける。	発 病 初 期 (開花40日前から 10日おき3回)	1 M7・19	ト ッ プ ジ ン M ソ ル (混) ポリベリン水和剤
3 灰色かび病 <i>Botrytis cinerea</i>	1. 施設栽培では暖房と換気によって室内湿度を下げる。 2. 無加温栽培では凍結しないよう、保温する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 灰色かび病の防除を実施しているところでは、うどんこ病の発生が少ない。	発 病 初 期	M7・19	(混) ポリベリン水和剤
4 アブラムシ類 (モザイク病 TuMV CMV 斑紋病 BBWV)	1. 育苗中は防虫ネット(1mm目合以下)で被覆する。 2. シルバーマルチ、シルバーストライプマルチ、シルバーテープを使用する。	発 生 初 期	1B	マ ラ ソ ン 乳 剤
5 コナガ	1. 照り葉品種より、有毛品種で発生が少ないので、有毛品種を植える。 2. 防虫ネット(2mm目合以下)で被覆し、成虫の飛来、産卵を防止する。 3. アブラナ科雑草は発生源となるので、除草に心がける。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. コナガコンの注意事項 ・ハウス内の天井に近い位置に固定する。 ・Ⅲ-25. フェロモン剤についての項参照。	定 植 時	1A 1A	ガ ゼ ッ ト 粒 剤 オ ン コ ル 粒 剤 5
		発 生 初 期 (多発の場合は 7日おき)	3A 6 11A 11A 11A 15	マ ブ リ ッ ク 水 和 剤 2 0 ア フ ァ ー ム 乳 剤 バ シ レ ッ ク ス 水 和 剤 ゼ ン タ ー リ 顆 粒 水 和 剤 ト ア ロ ー 水 和 剤 C T ノ ー モ ル ト 乳 剤
		発 生 期	- (フェ)	コ ナ ガ コ ン
6 ハイマダラノメイガ	1. 防虫ネット(2mm目合以下)で被覆し、成虫の飛来、産卵を防止する。	育 苗 期	4A	モ ス ピ ラ ン 粒 剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する